

ΚΟΣΜΟΣ



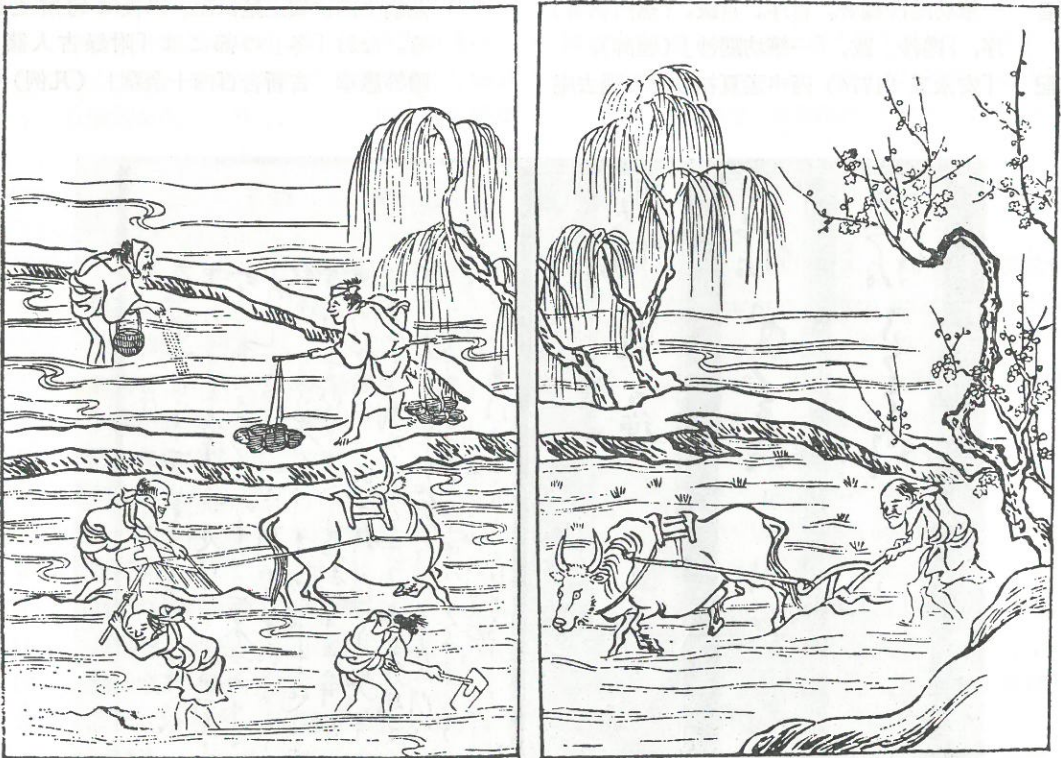
本学は1987年に100周年を
迎えます

コスモス No. 68 1985 冬

特集

食糧問題を考える

—ブックガイド—



宮崎安貞著「農業全書」の「農事図」より（初版は元禄10年。哲学堂文庫本は再刻本）

貴重書から

解題 東洋大学図書館蔵 『蕉翁句解過去種』

谷地 快一

表題 蕉翁句解 過去種

書名 「蕉翁句解過去種 春(夏・秋・冬)」(題簽, 墨), 「過去種」(序中題, 跋中題)。

小分類 俳諧注釈書。

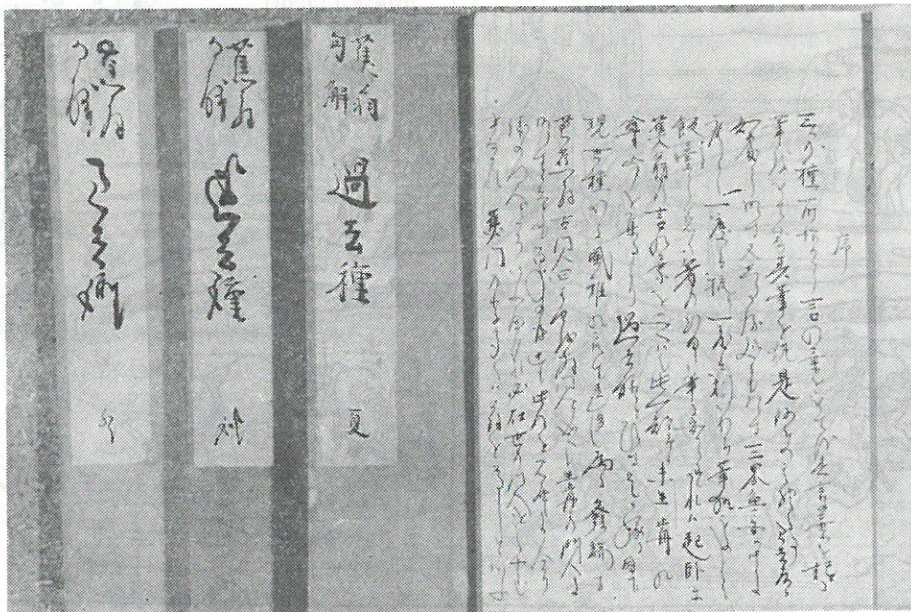
体裁 大本(原裝, 縹糸色無文表紙, 28.8×20.2 種)。写本。春夏秋冬4冊。春全36丁(丁付なし), 墨付35丁(第1丁遊紙)。夏全35丁(丁付なし), 墨付34丁(第1丁遊紙)。秋全38丁(丁付なし), 墨付37丁(第1丁遊紙)。冬全35丁(丁付なし), 墨付34丁(第1丁遊紙)。春夏秋冬総144丁(墨付総140丁)。原題簽, 左肩, 無辺。

著者 一筆坊鷗沙編著。自序。自跋。「蕉門執事」序, 「鷗沙」跋, 「一筆坊鷗沙」(題辭)。

年記 「安永五(1776)丙申孟夏初ひと日過去庵

に安居の筆の言始にして机下に容膝すとし
かいふ」(題辭), 「安永五丙申秋九月」
(跋)。

内容 本書は松尾芭蕉の発句を, 先行する俳書から蒐集し, 季題別に分類して, それぞれに著者の脇句をつけて, 頭注によって解説を加えたものである。収録する芭蕉句は八百五十余り。各冊を概観すれば, まず「春」の部は前表紙見返しに鷗沙像を摺り物として掲出して, 右肩に「父鷗沙筆勤之 効成因其貌 日々見之凶矣」と墨書, また左下には「息南里画」と墨書し南里の印とともに出している。鷗沙像のみが摺り物である点から, 本書が版本として流布していた可能性や上梓を予定した草稿本である可能性を予測しなければならないが, それは伝存する写本との校異をふくめた再考を俟たねばなるまい。各冊ともに第1丁が遊紙。「春」の部は遊紙につづいて「序」1丁, 「題辭」1丁, 「凡例」半丁とつづき「芭蕉翁生国伊賀上埜伝記」以後は句解となる。なお「冬」の部には「附録古人諸章贈答愚章 古新合百四十余章」(凡例)と



「蕉翁句解過去種」春の序と夏・秋・冬の題簽。

して、古今集、後拾遺集、新古今集等から十八首の和歌を一丁分、その後に守武から蕉門諸家にわたる発句を六丁分掲出する。なお、

木隠て花のものいふ呼子哉
七夕のあま中空や逢ぬ恋
ねりやねりそ萩かる男結から
はつ雪や門に橋に夕間暮

などは「蕉翁句解 過去種」にのみ伝わる句で存疑句とされている。

著者 鷗沙は伊村氏。名古屋の人。『俳諧新選年表』によれば、寛政八年（1796）八月十六日没（享年七十三）。一筆坊（六十七歳以後は逸筆坊と名のる）、巴竜舎、過去庵、瓜狐庵、十六林、墨狂などの号をもって、俳諧師また書家としても活躍した。俳諧は伊勢・美濃派系の反喬舎巴雀に学び、宝暦二年（1752）に巴雀が没した後は巴雀の息子夜話亭白尼にしたがった。巴雀白尼父子に学んだ点は加藤暁台に同じである。

時代 元禄七年（1694）に芭蕉が没すると都市を中心に俳諧師は点者として職業化が進み、勢力を競うあまり蕉門は主張を異にしながら統制を失ってゆく。一方、田舎風と呼ば

れる美濃派や伊勢派の地方は平俗を旨とすることで俳諧人口をふやしてゆく。しかし、都市系にしても地方系にしても、俳文芸としては原初的な詩情が稀薄である点が共通していた。こうした時代に対する反省の気運は享保十六年（1731）刊行の『五色墨』以後次第に全国へ広まってゆくが、中興期としての俳諧史上の盛時は安永・天明年間までまつこととなる。鷗沙が『蕉翁句解 過去種』と名づけて「過去庵に安居の筆」（題辭）をとった安永五年（1776）とは、まさに中興期俳諧の盛時で、彼五十三歳のことであった。参考までに中興諸家と比較するならば、安永五年は加藤暁台四十五歳、三浦樗良四十八歳、与謝蕪村六十一歳、大島蓼太五十九歳となる。俳諧中興運動が全国化する様子は安永二年（1773）刊行の蕪村一派の『あけ鳥』（高井几董編）の序文に謳われて周知のところだが、『蕉翁句解 過去種』の類からもそれは察せられよう。

諸本 綿屋文庫および東大洒竹文庫に同名の写本がある。ただし、洒竹本は秋冬二冊欠。（短期大学非常勤講師 たにち・よしかず）

『コスモス』掲載解題一覧

掲載号	書名	解説者	掲載号	書名	解説者
1	松姫物語	吉田幸一	2	An American dictionary of the English language.	荒木源正
2	源氏物語 帚木	石田穰二	39	Narrative of the expedition of an American squadron to the China Seas and Japan, performed in the years 1852, 1853, and 1854, under the command of commodore M. C. Perry, United States Navy...	沼田次郎
3	おこぜ	大島建彦	63	Wie Gertrud ihre Kinder lehrt ; ...	西村 誠
4	和漢朗詠集	峰岸 明	65	Two treatises of government ;	平野 耿
5	源三位頼政集	神作光一			
6	*別本小志きぶ	吉田幸一			
7	*あやめの前	大島建彦			
9	金葉和歌集	神作光一			
10	遍照發揮性靈集	宮田裕行			
11	異本秋月物語	佐藤りつ			
12	酒伝童子絵巻	吉田幸一			
62	こはぎがもと	高城功夫			
64	天雅彦	橋 りつ			

※は、54号にも再録されております。

特集

食糧問題を考える

今世紀最悪といわれるアフリカ大陸の飢餓状況は、今年（1985）に入って、いっそう拡大、悪化するおそれがあると伝えられている。国連機構をはじめ、国際的にはもとより、わが国でも、さまざまなレベルと形態での救援活動が、活潑に展開されている。

外務省の音頭で昨年9月には「アフリカ月間」が設定され、その開幕レセプションの席上、中曽根首相じきじきに、積極的な救援対策への熱意の程を披露した。11月には、安倍外相がアフリカ諸国を歴訪し、被災地域への財政援助の増額を決めた。著名人有志や関係民間団体による救援活動も、少なからず伝えられている。

こうした救援活動は、それとして結構なことである。私もさる民間研究機関の呼びかけに応じて、貧者の一灯を供したところである。また、この飢餓問題を契機に、「宇宙船地球号」の食糧・環境危機をめぐる人類的関心や認識が、あらためて強まり、深まっていることも、おおいに評価できる。

しかし、その反面で、農業・食糧問題の研究者として、とりわけ日本国民の一人として、なんとも割り切れないものが、心底にわだかまる思いを禁じえないのである。ある種のいらだちや痛みを覚えることなしには、これらの事態を、単純に素直に、うべないかねる心境にあることもまた、いなめないところである。

今回のアフリカの飢餓も含めて、とくにこの10数年の間における、発展途上国を中心とした農業・食糧危機の、もっとも基本的な背景、ないし根源には、相互に密接に関連した二つのことが指摘できると思う。一つは、いわゆる西側陣営による途上国に対する新旧の植民地主義的な支配、収奪

である。二つは、それと裏腹の関係にある天然資源の乱開発に伴う生態系や物質循環の攪乱、地球規模での気象条件の変異である。

ところで、わが国は西側陣営の重要な一員として、この両要因に重大なかかわりと責任を負っているのである。工業製品の集中豪雨的な輸出と、その見返りとしての第1次産品の大量輸入をテコ

に、戦後世界史に奇蹟的な高度成長を遂げ、エコノミックアニマルの異名をほしいままにしてきたことは、あらためていうまでもない。ただ、このさい、次のようなことには触れておく意味と必要があろう。

わが国の人口は世界総人口の約2%。それなのに、例えば、小麦の世界貿易量の約6%、大豆の15%を輸入している。こうして、60年当時、80%だった穀物自給率は、今日、30%そこそこに落ちこみ、先進資本主義国中、最低の水準にある。しかも、国の農業・食糧の根幹である稲作は、過剰を理由に、目下大幅減反中である。また、わが国の外材輸入量は、例えば丸太の世界貿易量の55%(79年)を占めるなど、世界の“森食い虫”、という非難的となり、かつての水産国日本は、その沿岸漁場・漁業の潰廃・停滞のうえに、いまや世界で1、2位を競う水産物輸入国となっている。

今日、世界には5万発にのぼる核爆弾が貯蔵され、その1%が実戦に使用されるだけでも、地球は確実に“核の冬”を迎えるという。唯一の被爆国として、戦争を放棄し、非核三原則を掲げる、その日本の首相が、右手では、事実上の軍拡と好核の旗を振り、左手では、アフリカの飢餓に対する積極的対応の大見得を切る。なんとも、そらぞらしく、おぞましく、矛盾したことに思えてならない。（経済学部教授 しげとみ・けんいち）

国際問題としての食糧危機

重
富
健
一

ブックガイド

食糧問題関係文献

食糧問題には、さまざまな問題が関係しています。以下のリストは、本学図書館の資料から日本語で書かれたものを選びました。

★ 図 書 ★

食料問題一般

- 日本に食糧問題はないか 大谷省三編著 文新
社 1979 (白山: 611.3: OS)
- 日本の食糧 井野隆一著 新日本出版社 1975
(白山・朝霞: 611.3: IR)
- 日本の食糧問題(上・下) 日本科学者会議編
大月書店 1978~1979(白山・朝霞: 611.3: N)
- 食糧(東京大学公開講座, 8) 東京大学出版
会 1973 (611.3: S-2) (朝霞: 611.3: S)
- 食糧経済 池上隆雄著 化学同人 1980 (白山
: 611.3: IT)
- 食糧経済学: 栄養士のための食糧経済の総合的
研究 松下英夫他著 家政教育社 1970 (白山:
611.3: MH)
- 食糧危機: その構造と保障の戦略 唯是康彦,
田村真八郎共著 ダイヤモンド社 1975 (白山:
611.3: YY: 2)
- 食糧問題の基本視角 井野隆一, 重富健一共編
著 新評論 1977 (白山・朝霞: 611.3: IR: 2)
- 食糧の経済: 真の豊かさを求めて 宮村光重,
吉田忠共編 ナカニシヤ出版 1982 (白山: 611.
3: MM)
- 食糧の経済分析 唯是康彦著 同文書院 1974
(白山: 611.3: YY)
- 食糧の経済学 柏博, 大国義一共著 法律文化
社 1977 (白山: 611.3: KH)
- 食糧の国際開発: 水資源の利用と経営革新によ
る 明文書房 1977 (白山: 611.3: IY)
- 農業・農産物市場と食糧**
- 講座現代農産物流通論 全6巻 家の光協会
1972~1974 (白山: 611.08: K)
- 農業にとって進歩とは 守田志郎著 農山漁村
文化協会 1978 (白山: 610.1: MS)
- 農産物価格形成論: 農産物市場と価格形成 御

園喜博著 東京大学出版会 1977 (白山: 611.43
: MY)

○世界の食糧問題と日本農業(有斐閣選書) 唯
是康彦, 斎藤優共編 有斐閣 1981 (白山: 611.
3: YT)

○世界の食糧・日本の農業 土屋圭造著 農林統
計協会 1981 (白山: 611.3: TK-2)

○食糧と農業を考える(岩波新書) 大島清著
1981 (白山: 611.3: OK)(朝霞: 岩波新書黄165)

人口と食糧

○地球は満員 朝日新聞社編刊 1974 (白山:
611.3: A)

○人口爆発: 世界人口安定化の戦略 レスター・
R・ブラウン著 黒田俊夫他訳 佑学社 1974
(白山: 334.3: BL: 2) (朝霞: 334.3: BL)

○米と人口と歴史 大森志郎著 元々社 1955
(白山: 611.3: OS-2)

気候と食糧

○気候変動で農業はどうなるか: 食糧危機を考
える(ブルー・バックス) 坪井八十二著 講談社
1979 (白山: 611.3: TY)

○気候変動と食糧: 国際会議からのレポート 高
橋浩一郎編 大明堂 1977 (白山・朝霞: 611.3:
TK)

資源としての食糧

○資源涸渇と食糧危機 大内力編著 学陽書房
1975 (白山: 602.9: OT)

○転機に立つ人間社会: ローマ・クラブ第2レポ
ート M・メサロピッチ, E・ベステル共著 ダ
イヤモンド社 1970 (白山: 604: MM)

品種改良・普及過程

○技術革新の普及過程 E・M・ロジャース著
培風館 1968 (白山: 361.5: RE-2)

○謎のコメが日本を狙う 栗原真, 上田洋一共著
日本放送出版協会 1984 (白山: 611.3: KM)

○作物改良に挑む(岩波新書) 山口彦之著 岩
波書店 1982 (白山: 615.3: YH) (朝霞: 岩波
新書黄212)

○石油タンパクに未来はあるか: 食と土からの発
想 高松修著 続文堂 1980 (白山: 611.3: TO)

戦略物資としての食糧

○武器としての食糧 ジェラルド・ガロウ著 T

[次のページもご覧下さい]

- BSブリタニカ 1981(白山・朝霞:611.3:GG)
 ○穀物メジャー:食糧戦略の「陰の支配者」(岩波新書) 石川博友著 岩波書店 1981(白山:611.3:IH)
 ○巨大穀物商社:アメリカ食糧戦略のかげに ダン・モーガン著 日本放送出版協会 1980(白山:611.3:MD)
 ○糧断:日本の飢える日 森永和彦著 家の光協会 1981(白山:611.3:MK)

食の文化・歴史

- 米食・肉食の文明 筑波常治著 日本放送出版協会 1969(白山:383.8:TH)
 ○分類食糧習俗語彙 柳田国男著 角川書店 1974(白山・朝霞:383.8:YK)
 ○飲食(日本史小百科) 遠藤元男, 谷口歌子共著 近藤出版社 1977(白山:210.08:N-17:1-16)(朝霞:210.08:N-3)
 ○郷土食慣行調査報告書 中央食糧協力会編刊 1944(白山:383.82:C)
 ○めし・みそ・はし・わん(民俗民芸双書) 宮本馨太郎著 岩崎美術社 1973(白山・朝霞:380.8:M:1-76)
 ○日本の衣と食 全10巻 明玄書房 1974(白山:383:N-3)(朝霞:383:N)
 ○日本の食物史:食生活のうつりかわり 足立勇著 新泉社 1947(白山:596.02:AI)
 ○日本の食物史:大陸食物文化伝来のあとを追って 安達巖著 同文書院 1977(白山:596:AI)
 ○日本食物史:食生活の歴史 樋口清之著 柴田書店 1967(白山:383.8:HS)
 ○食生活はどうなるか(岩波新書) 中山誠記著 1961(白山:596:NS)
 ○たべもの今昔(江馬務著作集第5巻) 江馬務著 中央公論社 1976(白山:380.8:ET:1-5)

統計

- 明治大正国勢総覧 東洋経済新報社編刊 1927(白山:358.016:T-2)
 ○日本農業年鑑 家の光協会 1972+(白山・朝霞:601.591:N-2)
 ○日本統計年鑑 総務庁統計局編 日本統計協会 1949+(白山・朝霞:351.059:S)
 ○ポケット農林水産統計 農林水産省統計情報部

- 編 農林統計協会 1951+(白山:605.9:N:2)
 ○世界人口年鑑 国際連合統計局編 原書房 1966+(白山・朝霞:358.059:K)
 ○世界農業白書 国際連合食糧農業機関編 国際食糧農業協会 1973+(白山・朝霞:612:K)
 ○世界統計年鑑 国際連合統計局編 原書房 1952+(白山・朝霞:350.9:K-2)
 ○食料消費総合調査報告 昭和41 農林省農林経済局統計調査部編 農林統計協会 1968(白山:611.32:N)

- 昭和国勢総覧 東洋経済新報社編刊 1980(白山・朝霞:358.016:S)
 ○図説農業白書 農林統計協会編刊 1972+(白山:612.1:N-4:2)(朝霞:612.1:N-5)

★新聞・雑誌記事★

- 飢餓大陸アフリカ 毎日新聞夕刊 1984・9・13~9・29。
 ○日本の食糧:風土・農政・食文化 ジュリスト増刊総合特集 28号(白山:Z320.51:J:4-28)(朝霞:Z未分類)
 ○おコメの改良(20世紀の軌跡) 朝日新聞朝刊 1984・10・2~12・29。
 ○新食糧革命:植物資源とバイオ技術 朝日新聞朝刊 1984・11・11~12・28。
 ○食糧問題とバイオテクノロジー(バイオテクノロジー:科学時代の新潮流<特集>) 松宮弘幸理想 609号 1984・2(白山:Z105:R)(朝霞:Z100:R)
 ○飢えに眼を:もう一つの現実<特集> 世界464号 1984・7(白山:051.3:S-4)(朝霞:Z050:S)
 ○飢えの構図:アフリカを考える 毎日新聞朝刊 1984・8・28~12・15。
 ○世界“食糧戦略”論考 矢口克也 レファレンス 401号 1984・6(白山:Z015.2:K)
 ○飢えるアフリカ 朝日新聞朝刊 1984・10・3~10・6, 10・14~10・23, 12・10~12・20
★文献目録★
 ○「食糧危機」をめぐる食糧問題に関する文献目録 調査及び立法考査局農林課編 国会国会図書館月報 195~203号 1977・6~1978・2(白山:Z016.11:K)(朝霞:Z未分類)

図書館 あ・ら・かると

★ 白山だより ★

東ワシントン大学文理学部長来館

10月31日、同大学文理学部長W.C. ホェッケンドルフ教授が来学されました。同大学は米国西部のワシントン州の東部の町、チェニー（Cheney）にあり、学生数は約7,000名の大学です。

ホェッケンドルフ教授は経済学部研究室により迎えられました。学内見学の一環として当館に立ち寄られました。閲覧室、書庫などを見学されましたが、経済学を専攻しているホェッケンドルフ教授は、本館所蔵の貴重書、アダム・スミスの『国富論』（初版本）には特に関心を示されたようです。また、哲学堂文庫所蔵の豊富な和装本にも驚かれたようです。館内見学後、図書館事務部長より『哲学堂図書館図書目録』が贈呈されました。

龍山文庫冊子目録完成

図書館には本学に縁のあった先生方からの寄贈図書が数多くあります。まとまった冊数をいただいた場合には旧蔵者の姓を冠した文庫名を付しております。「龍山文庫」もそのひとつです。これは本学名誉教授龍山義亮先生のご遺族のご厚意により、昭和54年7月に先生の蔵書のすべて（約3,000冊）が寄贈されたものです。すでにカード目録は完成し、本文庫も閲覧に供しておりますが、冊子目録の完成により一層利用しやすくなるでしょう。

この冊子目録は118ページからなっています。図書館職員4名が作成にあたり約半年の期間を要しました。また、多方面からの協力を得ました。殊に教育学科教授西村誠先生からは、この目録についての文章の他、いろいろと助言をいただきました。

龍山先生が教育学を専攻されていたことにより、本文庫は教育学関係の図書が中心となっています。特にペスタロッチー「児童教育法」の初版本をはじめとして多数の貴重書が含まれております。（龍山先生の略歴等はこの冊子目録をご覧ください。）



雑誌業務の電算化について説明をうける愛知大学の皆さん。

愛知大学図書館よりお客様

11月16日、愛知大学図書館より館長をはじめ館員の方など11名のお客様をお迎えいたしました。いろいろなテーマをもって当館を見学されました。特に業務の機械化には関心を持たれていたようです。本年4月より当館では雑誌業務の機械化が実施されますが、当館職員の説明を熱心に聞き、また、実際の作業もご覧になりました。

今岡文庫・杖下文庫を受贈

故社会学部教授・今岡健一郎先生（昨年5月在職中に逝去）より図書費として100万円が寄付されました。今岡先生は社会福祉学を専攻されておりましたが、そのご遺志を生かすべく、社会福祉関係の図書を中心に購入する予定です。図書の購入にあたっては、社会学部教授会により図書の選定が行われることになっております。

元文学部教授・杖下隆之先生（故人・昭和48年3月まで在職、昭和57年8月逝去）より寄贈された図書の整理が進んでおります。杖下先生は中国哲学を専攻されておりましたが、寄贈された図書も中国哲学関係を中心として、関連分野の多岐にわたるものを含めて、その数は約4,800冊あります。これらの図書のうち、とりわけ『魁本大字諸儒箋解古文真宝後集』『欽定詩経伝説彙纂』『蒙求詳説』『康熙字典』『古文真宝後集諺解大成』などは貴重なものと言えるでしょう。この「杖下文庫」の図書の一部は朝霞分館にも移管されます。白山本館・朝霞分館の2館で利用に供されるのもそう遠くない日のことです。

★ 工学部分館だより ★

佐藤文庫を特設

昭和59年3月、工学部情報工学科を定年により退任された佐藤亮策先生が、学生諸君のために新刊書多数を寄贈されました。その内容は、先生ご自身の退任の挨拶文によれば「日本および世界の史論、史話、史評、その解説、ならびに今日、日本人としての生き方に示教を与えてくれるもの」で、文庫、新書を中心に選んだ約400点で構成されています。

当館では先生の志に応え、合せて学生の便をはかるべくコーナーを特設する予定です。

集密（電動）書架設置

既報のとおり、書庫拡張工事が夏期休暇中に完了しましたが、引き続き、集密（電動）書架が年度内に設置されることになりました。2月中旬には工事を終え、蔵書点検等4月の開館にそなえるべく準備中です。

★ 朝霞分館だより ★

外国雑誌の利用について

朝霞分館は、現在156タイトルの洋雑誌を購入しています。このうち40タイトルは開架に展示しており、多く利用されていますが、残りの116タイトルは閉架書庫にあり、直接手にとって見る事ができませんので、「継続受入雑誌目録」を利用して下さい。

製本について

朝霞分館では年間約500冊の雑誌を製本しています。1年分を2回に分けて作業しますが、12月より、その約半分の250冊が当分の間利用できなくなりますので、お知らせします。詳しい誌名については、カウンターに掲示します。製本は、雑誌の散逸を防ぎ、中身を保護するので、丈夫で読みやすくなります。仕上りを見ると、美しく装本されるのに驚かされますヨ。

書評紙について

雑誌閲覧室の低書架に、書評紙のコーナーを設けました。書評紙は、図書の内容や性格を紹介し、併せて出版情報・文化情報も掲載されているので、大いに利用して下さい。

★ お知らせ ★

今春卒業される方へ

卒業された後も校友として引き続き本学図書館を利用することができます。

利用される際には、まず卒業証明書（卒業証書は不可）を1通カウンターに提出して下さい。それと引き換えに「図書館利用カード（校友）」をお渡しいたします。手続きはいたって簡単です。

館内で閲覧する場合は1度に5冊まで、借り出す場合は3冊までを1か月間貸し出します。白山・朝霞・川越の各図書館からそれぞれ借り出すこともできます。

例年200名以上の方が校友利用者として登録されておりますが、図書館がもっと多くの校友に利用されることを期待してやみません。

詳細についてはカウンターでお尋ね下さい。

書庫改造工事について

このたび白山の旧教員閲覧室に創立者井上円了博士の著書、資料などを別置保管することになりました。それにともない、書庫の一部改造を行ないます。工事期間は2月8日より3月31日までの予定です。この期間中、利用者の皆様には支障をきたさないよう努力しますが、ご迷惑をおかけすることもあるかと思ひます。ご協力をお願いします。

前号の誤りを次のように訂正します。

- P. 4 下から2行 御容赦をを→御容赦を
- P. 6 上から21行 西大蔵経 →西蔵大蔵経
- P. 6 上から26行 Tan'gyur →Tan'gyur

▶ 編集後記 ◀

今回は「特集」記事が深刻なので沈黙。たまにはマジメになろう。

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN ΚΟΣΜΟΣ

1985 冬 (No. 68) 1985年1月15日発行 編集: コスモス編集委員会 発行人: 大川信明 発行所: 東洋大学附属図書館 東京都文京区白山5丁目28番20号 Tel. (945) 7314